



る影響を受ける可能性があるため、利用者が不審な動作をするノードを発見した場合は、ノードを利用禁止状態に遷移させるのではなく、利用停止状態へ遷移させるにとどめ、実際に故障しているかどうかの検証は管理者が行う。また、夜間や週末に大規模な検証を行うことも可能である。この管理者による一斉検証は、検証対象のノードを利用停止状態へ遷移させた後に行い、その結果、検証対象のノードは待機状態または利用禁止状態へ遷移する。これらの検証の結果、故障が発見された場合は、ノード群の管理者に通知し修理を促す。

### 3 今後の方針

今後は、本稿で提案した設計をもとに、StarBED<sup>1</sup>における資源管理システムを実装し運用する。これにより定義した状態と健全性の確認方法の妥当性や、健全性確認システムや実験遂行システムとの協調方法について検討する。さらにこの結果を新たな設計実装に反映することで、より良いシステムを構築する。

**Copyright Notice:**

Copyright ©WIDE. All Rights Reserved.

This paper is published in proceedings of IC2004

(p.131, Tsukuba, Japan, Oct.28–29, 2004.)

---

<sup>1</sup>StarBED Project (<http://www.starbed.org/>)

北陸 IT 開発支援センター (<http://www.hokuriku-it.nict.go.jp/>)